

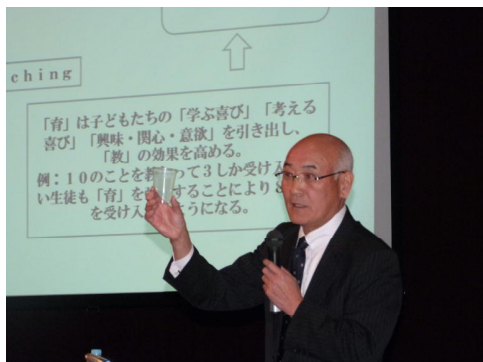
宮城県PTA指導者仙台地区研修会 協働教育研修会

日時：平成25年11月30日（土）
午後1時15分～4時

場所：富谷町成田公民館
主催：宮城県教育委員会・宮城県PTA連合会
共催：富谷町教育委員会・富谷町PTA連合会
主管：宮城県仙台教育事務所

仙台管内の協働教育研修会は、本年度も、PTA活動指導者の方々に「地域・家庭と学校との協働」の重要性を理解していただくため、「宮城県PTA指導者仙台地区研修会」と併せて開催しました。

研修Ⅰ 講演



「子育ての基本は家庭づくりから」
佐藤 福実 氏

講演の講師をお願いした佐藤福実様は、中学校に6校24年間、教育行政も中央児童館、県生涯学習課など5つの機関などいろいろな方面で勤務され、現在は、塩竈市生涯学習センター社会教育指導員、塩釜高等学校学校評議員として活躍されています。

講演の主な内容は次のとおりです。

今の子どもは、物質的な豊かさ、学校歴思考、少子化・核家族、情報過多、地域の都市化などから、社会に入っていくことが、自分さえ良ければ（自分主義）、実際に体験していないが何となく体験した感じになっている（疑似体験）、人間関係がうまく築けないなど、あぶない状況になっている。

この世には、不良少年はいない。みんな不幸少年なのだ。不幸少年をつくらないために、信頼の絆で結ばれた愛情ある夫婦の和が大切。家庭が子どもにとって息抜きのものであり、楽しい場であるならば子どもは決して家庭から飛び出さない。

家庭の三大役割 ①安息の場 ②しつけの場 ③親は子のモデルを取り戻し、思いやる心、人としてのモラル、人との触れ合いなどを日常生活の中で、特に家庭生活の中で育てることが教育再生の一步ではないか。

哲学者ルソーの言葉に「子どもを不幸にするためには、子どもが望むことを大人が全部やっつけてしまえばいい」と

ある。大人に課せられた責任とは、子どもの非凡な能力を発見し、それを伸ばすこと。そのために様々な体験をさせ、自分の能力に気づかせれば素晴らしい活躍をし、素晴らしい生活をするであろう。

では、どのようにして子どもの可能性を引き出すか。それは、やはりコミュニケーションだ。①あいさつ ②笑顔で ③「ごめんなさい」は先に、「ありがとう」は積極的に ④否定的な表現よりも肯定的な表現で ⑤聞き手に回る ⑥タイミング良くほめるなどを心がければ人間関係は良好になる。是非、大人が団結して次代を担う子育てを！

佐藤福実先生ご自身の豊富な経験や先人の知恵などを紹介いただきながら、家庭教育のあり方についてたくさんのお示唆を与えていただきました。

研修Ⅱ 実践発表



『富谷町地域・学校・家庭をつなぐ取組』 ～学校支援本部事業、5つの地区の5つのテーマ～

富谷町教育委員会 生涯学習課長 佐藤 英樹氏
富谷町地域コーディネーター
高平幹子氏 大内親子氏
新富留美氏 菅原幸市氏
鬼澤久子氏 佐藤英子氏

富谷町教育委員会は、平成20年度から「地域が元気になる！ 学校が元気になる！」を合い言葉に、文部科学省の「学校支援地域本部事業」をスタートさせ、地域全体で子どもを育てる環境づくりに取り組んでおり、実践発表をお願いしました。

富谷町の地域・学校・家庭をつなぐ取組の特色は、地域本部とコーディネーターを公民館に置き、地域本部毎に地域の实情に合ったテーマを設定したことです。富谷地区は「伝承文化を大切に」、東向陽台は「本に親しむ」など5つの地域本部について、各コーディネーターからテーマに沿った具体的な取組を発表していただきました。「音楽」がテーマの成田地区の発表の際、「手のひらを太陽に」を参加者全員で手話を交えて歌いました。心温まるひとときでした。

富谷町の協働の取組は、子どもたちの豊かな学びを実現しています。また、住民が知識・経験を子どもたちに生かす場となり、学校を拠点に関わることで地域の絆が深まり、生きがいづくりに役立っています。

協働教育をさらに進めていこうとしている市町村にとっても、大変参考になる発表でした。